

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

絵日記の部

『いいきもち』

河東学園前期課程 1年 菅野 悟志



ま	ま	い	り	こ	も	さ	り	く	ワ
ち	し	い	まし		ん	の	は	が	
な	た	き	せ	し	て	か	ご		つ
ま		も	ん	か	い	し	み	い	21
も	き	ち	で	ご	た	ま	ひ	く	に
り	れ	に	し	み	よ	し	ろ	せ	す
た	い	な	た	は	り	た	い	い	
い	な	り		あ	す	お	に	か	ぼ

小学校 一年かんのメモ

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

小学校2・3年生の部

『美しいまちのために』

会津若松市立門田小学校 3年 山谷 莉々雛

わたしの住む会津若松に、今年五月にごみきんきゅうじたいせんげんがだされました。はじめは、どういうことだろう。全ぜん意味が分かりませんでした。

お母さんに聞いてみると、会津若松市のごみの量がふえ続けていて、地球かんきょうがこわされたり、わたしたちが気持ちよくせい活できなくなることだよと教えてくれました。わたしは、ハッとしました。好ききらいをして、ごはんをのこしてしまうことがあります。

それは、きっと生ごみとして捨てられています。何気なくしてしまっていることが、積みかさなって大きな問題になっていて心がいたくなりました。

また、わたしのお父さんとお母さんは、コンビニではたらいています。わたしがしょく場にいっしょに行くと、ごみをほかんする場所にたくさんのごみがおかれています。わたしが「一日にこんなにたくさんのごみがでるの。」とお父さんに聞くと、「お店から出るごみだけじゃないんだよ。かていから出るごみをおいていってしまう人もいるんだよ。」と言ったお父さんは、こまった顔にみえました。わたしは、とてもびっくりしました。

なぜちいきの決まった場所に分べつして、捨てられないの？ルールでしょと思いました。

会津若松では今、大きなごみしより場をたてていますが、だからといってたくさんごみを出していいわけではなく、一人一人がごみ問題についてしっかり考える事が大切だと思います。

よく町でごみ拾いをしている人たちを見かけます。きっと町をきれいにしたいと、一人一人がごみ問題について考えてくれているのだと思います。私もぜひ、さんかして、町をきれいにしたいです。

まずは、ごはんをのこさないなど、小さな事から少しずつ、積みかさねてみようと思います。

一人一人が、しっかりとごみ問題に向き合えば、かんきょうも、守れるし、私たちの生活も守れると思います。大好きな会津若松のために。

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

小学4・5・6年生の部

『「環境をととのえる」とは』

会津若松市立謹教小学校 6年 廣瀬 世奈

私の通う謹教小学校では、六年生になると「朝ボラ」という清そう活動があります。下級生より早く登校して、玄関やろうかをはいたり、ぞうきんがけをしたりします。謹教の伝統を受けついで、今年は三十一人で行っています。四月の初めは気持ちが後ろ向きだった私たちも、一カ月経つころには、自分たちの手で学校をきれいにするという使命感を持ってそうじするようになりました。去年より六年生の数が約二十人も少ないけれど、みんなのやる気は人一倍です。きれいになった校内は、とても気持ちがいいです。

そして私は、朝ボラの他に、緑の少年団の団長として花だんの整備も行います。水やりをしていると、まるでお花が顔を洗っているみたいだと感じることがあります。私が毎朝顔を洗うように、花たちも顔を洗って身だしなみを整えているのです。朝日を浴びてキラキラとかがやいた花からは、おはようと声が聞こえてきそうです。花だんの横を、みんなが元気に登校してきます。花があると、自然と気分がうきうきしてくるからなのか、みんな笑顔で校舎に入っていきます。

緑の少年団では、夏休み中も当番で水やりをしています。団員だけでなく、先生も協力して、謹教の美しい環境を守っています。毎日続けるだけでも大変なことなのに、謹教小のこの活動は五十年間も続いているのです。朝ボラも、緑の少年団も、美しい学校にしたいという気持ちから、ずっと続けられてきたのだと思います。

「環境をととのえる」とは、その時だけやって終わりではなく、けい続することが大切なのだと思いました。そして、きれいにすることは、その場所を訪れる人を清々しくおむかえする準備ではないかと思います。だから私は、いつ訪れてもきれいな学校であるために、朝ボラや緑の少年団の活動を、これまで以上に心を込めて行いたいです。そして、今後は校内のことだけでなく、外の活動にも目を向けていきたいです。会津若松市の環境をととのえ、美しいまちをつくるために。

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

中学生の部

『ゴミを捨てない世の中をつくる』
会津若松市立第四中学校 3年 江川 ことみ

下校しているときに、歩道のごみを拾っている人がいた。その人は、落ちているゴミを歩道の端から端まできれいに拾っていた。その日は、今にも倒れそうなほど暑く私は、小走りで家に帰っていた。そんな中、その人はもくもくとゴミを拾い続けていた。私はそれを見てこの人の行動は誰にでもできることではないと思った。多くの人は、ゴミを見つけても見えぬふりをしてしまうだろう。自分のゴミでなければなおさらだ。それなのに、この人は落ちていた誰かのゴミを丁寧に拾い歩道をきれいにしていた。もちろん自分のためなのかもしれないが、その行動は他の人にも影響をあたえていると思う。道がとてもきれいならその道を歩く人もいい気持ちになるだろう。ゴミ拾いをしている人がいたら道のゴミを気にする人も増えるだろう。これが積み重なっていけばゴミを見て見えぬふりをしてしまう人が減るのではないかと思った。

私の学校でも愛校活動という通学中にゴミを拾ってまちをきれいにするという活動がある。私も実際にゴミを拾ったが、歩道にはお菓子のゴミ、たばこの吸いがらなどたくさんのゴミが落ちていた。普段はあまりよく見ない歩道の端や草の周りを捜すと細かいゴミが落ちていて驚いた。どうして道にゴミを捨ててしまうのだろうか。まちはみんなのものであり、自分だけのものではない。だからといってまちにゴミを捨てていいわけではない。自分のゴミは持ち帰ってちゃんと処理してほしいと思う。ゴミはゴミ箱へ、この基本的なマナーは守れるようにしてまちをきれいにすることが大切だと思う。

きれいなまちをつくり、保っていくためにはたくさんの人と協力すること、知ってもらうことが必要だ。自分一人で頑張ることも大切だが、他の人にも声をかけをしたり、伝えていくことも大切だと思う。町はみんなのものでみんなでつくっていくものだから自分には関係ないと思わないでほしい。これぐらいいいだろうとゴミを捨てたり、汚してしまったらそれが普通になってしまい最初は小さくてもどんどん積み重なっていけば大きな問題になってしまう。そうなってしまう前に知ってもらいたい。誰でもゴミいっぱいのもちよりきれいなまちが好きだろう。みんなの力も積み重なれば大きな力になってもっとまちをきれいにすることができると思う。

これからは私もゴミを見つけたら進んで拾っていこうと思う。その姿が小さな子のお手本になれるようにしたい。私の学校では「私がやります」をテーマにし、自分で行動することを大切にしている。この言葉をいかし、私もまずは自分から行動してみようと思う。よりよい会津をつくるため、みんなが協力してまちをきれいにし、どこを見てもゴミのないまちにしたい。そして、ゴミを拾うのがあたり前はもちろん、ゴミを捨てないのがあたり前という世の中になっていけばいいと思う。